

会長テーマ：クラブの主役は、会員一人一人です。

会長 荒井信弘
幹事 中村直弘
会報 佐藤陽二

国際ロータリー第 2770 地区第 8 グループ越谷南ロータリークラブ
〒343-0842 越谷市蒲生旭町 10-14 中野ビル 2F Email : info@koshigayasouth-rc.jp



2018年 7月 19日 第2157回例会 会報

【点鐘】

【ロータリーソング斉唱】

【ゲストビジター紹介】

第2770地区パストガバナー 浅水尚伸様
第8グループガバナー補佐幹事 水町俊介様
常陽銀行 越谷支店支店長 深沢 隆様

【会長あいさつ】

荒井信宏会長



皆様、こんにちは。本日は、AI（人工知能）と職業についてお話しします。

その前にITについて少し、触れたいと思います。今から約20年前からITという言葉が一般的に使われるようになり、この20年間で物凄い勢いで私たちの生活に入ってきました。スマートフォン・ 아이폰等の機器を身に着け、ライン・フェイスブック等のSNSを大多数の人々が利用する時代となりました。ロータリーにおいてもMY ROTARY 100%登録が第2770地区の目標になりました。

さてAIは今から20年後、私たちにどのような変化をもたらすのでしょうか。

私の最近読んだ「あと20年でなくなる50の仕事」の本の内容を少し抜粋します。

まず、＜中途半端な知的労働者は容赦なく排除される＞職業として、弁護士です。

弁護士の仕事を2つに分けていて、法定に立ってクライア

ントを勝利に導く仕事は無くならないが、係争に必要な情報を集め、重複なくまとめていく仕事はAIに置き換えられるとあります。

税理士 記帳代行を主体にやっている税理士の仕事はなくなってしまいが、企業経営に対して税務の視点からアドバイスする仕事はあり続けるとあります。

次に＜時代に合わせて変化しながら生き残る職業＞として高級レストランや旅館などの接客業 レストランでソムリエとんちくを語り合ったり、旅館の仲居さんと地元についての会話を楽しむ等、ヒューマンプレミアムがある仕事は生き残るとあります。

経営者 この仕事は会社の運営についての判断をすることが仕事なので、AIやコンピューターがその判断を助けるような情報を提示することはあっても、ロボットが社長になることはありえないとありました。

ご紹介した、なくなる仕事、生き残る仕事から導き出されるのは「定型的な仕事」・「単純労働」はAIに置き換えられる一方で、「創造的な仕事」、「ヒューマンプレミアムがある仕事」は生き残るではないかと思いました。

ここで私の職業である不動産鑑定師の将来について改めて考えて見ました。今後は今まで以上に依頼人の立場・利益を考えて、より創造的な仕事を実践すれば、AI時代になっても生き残れると感じています。

最後にロータリーはAIやロボットによって、どうなるのでしょうか。定型的な奉仕活動ではなく、創造的な考えを積極的に取り入れ、かつヒューマンプレミアムがある（心があると言いかえます）奉仕活動を実践することによって、今後もあり続けるのではないのでしょうか。

【幹事報告】

中村直弘幹事



【第8グループ】

- 越谷北RCから越谷ジュニア甲子園野球の案内が届いております。越谷市民球場にて7月31日(火)から8月6日(月)まで熱戦が繰り広げられます。初日8時からの開会式に会長と私で訪問する予定です。参加希望の方はご連絡ください。

【RI第2770地区】

- 西日本豪雨災害義捐金のお願いが届いております。会員一人につき1,000円以上のお気持ちを頂戴できればと思います。8/2(木)の例会終了後、地区へ振り込みますので、ご協力頂けますようお願い申し上げます。
- 先週もご案内しましたが、地区大会記念ポリオ撲滅チャリティーゴルフコンペが開催されます。10月15日(月)、プレステージカントリークラブ、登録料5,000円、プレー費12,000円(食事、キャディーフィ込、税別)。
- 猛暑が続いておりますので、部門セミナーはクールビズでご参加ください。

【委員会報告】



【国際奉仕委員会】

7月25日～29日の5日間で台中南區扶輪社のご子弟を受け入れます。5人全員、男の子です。そのホストファミリーを小林光蔵副委員長、中島頼光委員が引き受けて下さることになりました。宜しくお願い致します。スケジュールは7月25日にお迎え、7月26日にウェルカムパーティ、7月27日にディズニーランドへ観光、7月28日はホームステイ先と過ごした後に花火大会、7月29日に台湾へ帰国という予定です。まずは7月26日のウェルカムパーティへ、大

勢の皆様のご参加をお願い致します。



【(前年度)青少年奉仕委員会】

7月12日に宮澤海大君が無事に日本へ帰国しました。そしてアントニオ君は7月25日にメキシコへ帰国します。大勢でお見送りしたいと思いますので宜しくお願い致します。

⇒ホストファミリー御礼、お小遣い



【お客様挨拶】



入会予定者 常陽銀行 越谷支店支店長 深沢 隆様

皆さまこんにちは。先般の人事異動で吉田の後任として着任致しました。従前は栃木県の小山市で支店長をしておりました。小山ロータリークラブで二年ほど活動しておりました。皆様のご承認を頂ければ、引き続き越谷でロータリアンとして奉仕活動をしたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



アントニオくん

日本に着てから10ヶ月が経ちました。思っていたより大変なこともありましたが、文化の違いに慣れることや、異なる環境の中での過ごし方を学びました。毎日どの瞬間も生活の中の全てのことを理解したいと思っておりましたが、なかなか分からないことがあり、ときどき寂しく感じることもありました。友だちがたくさんできたことは本当に良かったと思います。実は私のことを分かってもらえないと感じていました。そういうときにいろいろなことを学びました。困って落ち込んだときに、自分の目的を持っていけば解決できること。もう一つは、一人であるよりも友だちというほうが楽しいということです。一年間、メキシコの家族に全く会えないことでとても寂しく感じましたが、自分の目的が達成できることを誇りに思います。日本のことをたくさん学べて幸せです。もう最後なので寂しく感じます。様々な人たちのおかげで非常に成長できました。特に話しかけてくれた人にも有難いと思います。私の日本の生活を楽しくしてくれて本当に感謝しています。またいつか日本に来たいと思います。そのときは会ってくれると嬉しいです。皆さま本当に有難うございました。

【クラブフォーラム 地区補助金(大口枠)】



浅水パストガバナー

そもそもモンゴルのご縁というのは、私がガバナー年度に地区大会にご参加頂いた山形のパストガバナーの皆川さんという、この地区では非常に仲良く接している方ですが、その山形は青少年交換や米山などに力を入れている地区となっています。そのなかでモンゴルで大変有名なジャンチブさんという米山出身の方が、新モンゴル学園という日本式の中高一貫教育を始め今では大学までできているのですが、そこでは剣道をやらせたり日本語教育を教えたりして日本式の教育を徹底して行っており、そこ出身の学生さんたちが日本に来て米山奨学生になるなどしている状況です。

個人的には、亡くなられた濱野パストガバナーのお嬢さんがモンゴルのJICAに2年行ってしまして、濱野ガバナー年度が終わるところから、皆でモンゴルに行って星でも眺めようという話をしていました。それが心残りではあったのですが、皆川さんに相談するなどしてきっかけを探していました。

私はもともと友綱部屋の旭天鵬関や旭秀鵬関というモンゴル出身のお相撲さんと仲が良く、そういう縁もあってなにかモンゴルのためにできることはないかと考えておりました。

そして昨年の11月に皆さまにもご協力頂いて、ムンフダライさんというエルデネットRCの方が来日されました。エルデネットは銅製品で世界ナンバー3位の銅山を持っている都市で、以前はロシアの支援で鉱山開発が行われていたのですが、今は手を引いているので今後どうするかという状況の場所です。そんな場所から夫婦でいらっちゃって、我々としては精一杯おもてなしたつもりです。

そのエルデネットRCに対し何か我々にできることがないか尋ねたところ、エルデネットでは障害児の扱いや教育について全く分からない状況で、今は手探りで一般の父兄が集まってただただ面倒を見ている状況だということでした。専門的な知識も全くない状況なので、障害児教育について学ぶ機会をもらえないだろうかという話がありました。そんな経緯で今回の地区補助金大口枠で1万ドルという枠がもたらされたわけですが、いずれは3万ドル以上のグローバル補助金へ進むことが条件となっています。今年度はグローバル補助金の利用に向けての練習材料という位置づけの取り組みとなります。

ちょうど時を同じくして、越谷ではモンゴルの経済界との

交流という動きが活発になってきました。これは北クラブの関森さん、中クラブの鈴木さんがモンゴルに会社を持っていき、その二人が中心となってモンゴルの経済界との交流を図りたいということで、先日も元外務大臣、在日大使ほか5~6名を招いての会合がありました。

さて、この第2770地区はここ十数年、田中パストガバナーが非常に力を尽くされて第3800地区のフィリピンとの交流を重ねてきました。地区としての動きだけでなく、各クラブでフィリピンのクラブとの連携を強め、様々な奉仕活動を続けており、いまや成熟した段階となっています。ただ残念ながら我がクラブはそこに入っていない。第8グループで力を入れているのは東クラブで、創立記念パーティではフィリピンの方が大勢いらっしゃっていました。そういう意味では、越谷南RCがモンゴルを中心に国際奉仕を進めていくことは、クラブとしてのアイデンティティを高め効果があるのではと期待しています。

モンゴルの国自体についてですが、皆さまは大草原や羊やゲルといったものを思い浮かべるとは思います。そういう面が今も色濃く残っています。日本からは飛行機で4~5時間で非常に近いとありますが、日本とは全く環境が違います。ただウランバートルは大会場でして、外国からの資本も入り近代的なホテルが林立しています。日本人が経営していて、日本食のレストランが中にあるようなホテルもあります。しかし車で15~20分走ると大草原という二重構造のようになっています。ウランバートルにはロータリークラブが19あって、地方にはあと2つのクラブがありそのうちの1つがエルデネットRCです。ウランバートルのロータリークラブの皆さまにもお会いしましたが、30代を中心とした非常に若いクラブでした。多くが留学経験があり、イメージと違うかもしれませんが、ほとんどの方がヨーロッパへの留学経験でした。なのでモンゴルという国はつい最近まで完全にヨーロッパを向いている国であったと言えます。しかしここ最近では日本や韓国が経済支援をするようになり、日本にも目が行くようになっていきます。アメリカの影響は全くなく、むしろロシアの影響が強いです。ヨーロッパを向いている国との交流というものは、日本のロータリーとしては画期的ではないかと思えます。

さて、グローバル補助金に向けてという意味では、我が地区がやってきたことのほとんどが、向こうからお客様を招いて勉強してもらうというもので、かつてはGSE、いまはVTTと呼んでいるものです。前回、フィリピンに対しては800万ドル規模の支援をしましたが、600万ドルぐらいのエコーの機械を贈与して現地の人に研修をするというものでした。私が疑問に思うのは、明らかに先方はその装置が欲しかったのであって、もっと文化的な交流を深めたり、繋がりが強められたりするような内容であってほしいと思います。その意味では同じモンゴロイドであるモンゴルのほうが仲良くやっていけるのではと思います。これからのモンゴルとの交流はロータリーとしての課題だと思います。



中村幹事

モンゴル障害児童支援
2018-19年度 地区補助金(大口枠) プロジェクト(案)

■目的

モンゴル国内における障害児童への教育方法の向上

【背景】

2017年11月に越谷南RCを訪問したモンゴル国エルデネットRCのムンフダライ氏によると、モンゴル国では障害児童への教育や医療・福祉などの総合的な支援が遅れており、以下のようなニーズがあるそうです。

- ・就学先や教師の確保
- ・包括的な発達支援による教育向上

■受益者

モンゴル国エルデネット市・ウランバートル市内にある児童施設の障害児童

■方法

モンゴル国の教育関係者、社会福祉関係者を日本へ招待し、日本の障害児教育の実態を検分、教育方法等を習得していただく。

職業研修チーム(VTT)の考え方に近い。

■専門家による指導

服部 純一 先生

【卓話テーマ】

「発達障害児の教育支援・学校教育」

【プロフィール】

1981-82 浦和西RC推薦で、米国ノースカロライナ大学に留学

専攻は自閉症・発達障害の教育診断と教育支援について
帰国後は埼玉県内の特別支援教育の指導者として、行政(越谷市教育委員会)や学校経営(粕壁小学校教頭・桜井南小学校長・西方小学校長)

特別支援教育の振興(全国特別支援学級設置校長協会参与)等で活躍中

現財団学友会会長

■概要

埼玉県は障害児童に対する総合的な支援の先進的な地域である。埼玉県の特別支援体制の整備について、特に
 ①障害のある子どもの就学先や、特別支援教育に関わる教師の確保（養成）

②障害のある子どもへの医療や福祉など、包括的な発達支援に対する社会の支援
 などについて、日本の状況を把握し、これからのモンゴル国の障害児者支援の糧にしていだけるよう、国際奉仕として取り組む

■実施日

2019年1～2月上旬頃で移動日含め5日間
 ※特別支援教育を含む学校教育は、10～11月は各学校の研究発表や学校行事で、繁忙な時期となる。
 ※2月末からは年度末の卒業や入試に向けた時期となるため、この時期が望ましいと思われる。

■場所

- ①埼玉県教育局・小児医療センター
- ②越谷市教育委員会（越谷市教育センター）、市内県立特別支援学校、市内特別支援学級設置小中学校
- ③市内発達支援センター、障害者就労訓練支援センターしらこばと等

■訪問研修内容

- ①日本における国、県、市の政策を学ぶことは、埼玉県教育局特別支援教育課を訪問し、教育長表敬の後、特別支援教育課から障害児教育システムの説明を受ける。（半日）
- ②さいたま新都心に昨年開設された県立小児医療センターと発達障害総合支援センターを視察し、新生児や障害幼児の早期診断や早期医療と、福祉・教育の連携システムを紹介する。（半日）
- ③越谷市教育センターを視察する。加えて越谷市発達支援センターを視察する。（半日）
- ④埼玉県立越谷西特別支援学校（知的障害）または越谷特別支援学校（肢体不自由）を視察する。
- ⑤越谷市内小中学校の特別支援学級を視察する
- ⑥越谷市役所福祉部、社会福祉協議会を視察し、障害者の生活支援などのシステムを視察する
- ⑦障害者職業支援センターの視察
- ⑧ロータリアンの経営する企業などで、障害者雇用について視察する

■予算

【収入】		
地区補助金（大口枠）	=	1,000,000 円
国際奉仕委員会	=	35,000 円
=====		
合計		1,200,000 円

【支出】

航空券	170,000 円/往復 × 5 人 =	850,000 円
宿泊	40,000 円/4 泊 × 5 人 =	200,000 円

食事	13,000 円/13 食 × 5 人 =	65,000 円
通訳	10,000 円 × 5 日 =	50,000 円
予備費	=	35,000 円

合計
 1,200,000 円

■効果

モンゴル国における教育関係者、社会福祉関係者の育成により、障害児童の自立や社会参加を促進する。
 障害児童の自立と社会参加により、障害児童の家族の負担を軽減する。
 モンゴル国における成功事例を作り、他国へ展開する。

■測定方法

- ①エルデネット RC による事業計画の策定
 3年後をゴールとする
 障害児童を支援できる教育関係者の数の把握と向上
 障害児童受け入れ可能数の把握と向上
- ②①の進捗状況を確認するレポート提出(毎月)



【スマイル報告】



お陰様で		
スマイル	26 件	32,000 円
累計		133,500 円
		ありがとうございます。

【出席報告】



例会日	平成30年7月19日		
会員数	48名	出席	23名
出席免除者	8名	欠席	25名
出席率	64.5%	前々回MU	3名
MU修正率	70.0%	会報担当：中村	

【会報担当より一言】

地区補助金（大口枠）プロジェクトがんばりましょう。